

⑬ 野菜作りの基礎

うねの方向は南北に

4月になり、暖かくなってきました。家庭菜園では、ナスやトマトなど夏野菜の植えつけが始まります。今回は家庭菜園での野菜づくりに向けた基礎の話をしていきます。

①野菜の栽培環境

野菜の中には高温または低温を好むもの、日照時間の違いにより花が咲くものなど、作物によって栽培環境に違いがあります。ウリ類、ナス、ピーマンなどの夏野菜などは寒さに弱く、キャベツ、ハクサイ、ダイコンなどの冬野菜は高温では育てにくいです。またホウレンソウ、シュンギク、レタスなどは日照時間が長くなると花芽ができるものなどがあります。一般に作物は強い光を要求しますが、サトイモ、ショウガなど半日陰に耐えるものなどもあります。

②土づくり

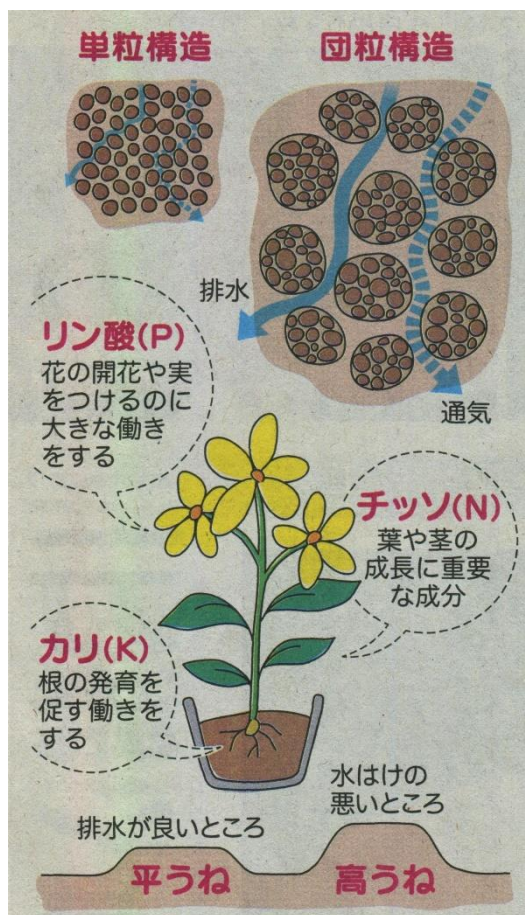
野菜に限らず作物を育てる上でよい土が必要になります。よい土とは、①通気性、排水性、保水性が良いこと②必要な肥料養分を保持できること③栄養に富んでいること④適当な土壌酸度（pH）であること、有害微生物や病原菌がないこと一などがあります。また土は、腐葉土や堆肥などを施し、深く耕すことで、適度なすき間ができ、排水や通気を良くする「団粒構造」といわれる土になります。

③肥料

作物が生育するためには、土の中にある栄養分だけでは不足するので、栄養分を補給します。これが肥料で、含まれる成分によっていろんな種類のものがあります。特に必要な成分は、植物の葉や茎の成長に重要なチッソ、花の開花や実を着けるのに大きな働きをするリン酸、根の発育を促す働きをするカリで、3要素といわれます。そのほかカルシウム、マグネシウムを加え5要素と呼んでいます。このほか、鉄、マンガン、ホウ素などの微量元素と呼ばれる必要な成分もあります。

④栽培準備（耕耘・施肥・うね立て）

栽培を始める前に、菜園畑の通気性や排水性、保水性を良くするため、石ころや草の根などを取り除きながら土を砕き、耕耘します。えつける前に施す肥料を元肥といい、チッソ・リン酸・カリを作物ごとに必要とされる量を植えつけの1週間前に施します。作物の種類、栽培時期を考慮し、水はけの悪い所では高うね、排水が良い所では平うねなど、うねを立てて植えつけ準備を行います。うねの方向は、一般的に南北に作ると作物に一日中太陽光が当たります。



（鹿児島市都市農業センター）